発行登録追補目論見書

2026 年 11 月

ＫＤＤＩ株式会社

発行登録追補目論見書

2026年11月

ＫＤＤＩ株式会社

東京都新宿区西新宿２丁目３番２号

目次

頁

【表紙】
第一部【証券情報】 …… 1
第１【募集要項】 …… 1
１【新規発行社債（短期社債を除く。）】 …… 1
２【社債の引受け及び社債管理の委託】 …… 4
３【新規発行による手取金の使途】 …… 5
第２【売出要項】 …… 5
第３【第三者割当の場合の特記事項】 …… 5
第二部【公開買付け又は株式交付に関する情報】 …… 5
第三部【参照情報】 …… 5
第１【参照書類】 …… 5
第２【参照書類の補完情報】 …… 6
第３【参照書類を縦覧に供している場所】 …… 9
第四部【保証会社等の情報】 …… 9
「参照方式」の利用適格要件を満たしていることを示す書面 …… 10
事業内容の概要及び主要な経営指標等の推移 …… 11

【表紙】

【発行登録追補書類番号】　７－関東１－２
【提出書類】　発行登録追補書類
【提出先】　関東財務局長
【提出日】　2026年11月25日
【会社名】　ＫＤＤＩ株式会社
【英訳名】　KDDI CORPORATION
【代表者の役職氏名】　代表取締役社長　CEO　　松田　浩路
【本店の所在の場所】　東京都新宿区西新宿２丁目３番２号
（同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】　該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】　該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】　東京都港区高輪２丁目21番１号　THE LINKPILLAR 1 NORTH
【電話番号】　（03）3347－0077
【事務連絡者氏名】　執行役員　コーポレート統括本部　副統括本部長　兼
経営管理本部長　　明田　健司
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】　社債
【今回の募集金額】　100,000百万円
【発行登録書の内容】

提出日	2025年11月17日
効力発生日	2025年11月25日
有効期限	2027年11月24日
発行登録番号	７－関東１
発行予定額又は発行残高の上限（円）	発行予定額　1,000,000百万円

【これまでの募集実績】
（発行予定額を記載した場合）

番号	提出年月日	募集金額（円）	減額による訂正年月日	減額金額（円）
７－関東１－１	2025年11月28日	300,000百万円	－	－
実績合計額（円）		300,000百万円 （300,000百万円）	減額総額（円）	なし

（注）　実績合計額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額（下段（　）書きは、発行価額の総額の合計額）に基づき算出しております。

【残額】（発行予定額－実績合計額－減額総額）　700,000百万円
（700,000百万円）
（注）　残額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額（下段（　）書きは、発行価額の総額の合計額）に基づき算出しております。

（発行残高の上限を記載した場合）
該当事項はありません。
【残高】（発行残高の上限－実績合計額＋償還総額－減額総額）　－円
【安定操作に関する事項】　該当事項はありません。
【縦覧に供する場所】　株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第一部【証券情報】

第１【募集要項】

１【新規発行社債（短期社債を除く。）】

銘柄	ＫＤＤＩ株式会社第44回無担保社債（社債間限定同順位特約付）
記名・無記名の別	－
券面総額又は振替社債の総額（円）	金100,000,000,000円
各社債の金額（円）	金100万円
発行価額の総額（円）	金100,000,000,000円
発行価格（円）	各社債の金額100円につき金100円
利率（％）	年2.266％
利払日	毎年６月９日及び12月９日
利息支払の方法	１．利息支払の方法及び期限 (1) 本社債の利息は、払込期日の翌日から本社債を償還すべき日（以下償還期日という。）までこれをつけ、2027年６月９日を第１回の支払期日としてその日までの分を支払い、その後毎年６月９日及び12月９日の２回に各々その日までの前半か年分を支払う。但し、半か年に満たない期間につき利息を計算するときは、その半か年の日割をもってこれを計算する。 (2) 利息を支払うべき日が銀行休業日に当たるときは、その支払は前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 償還期日後は利息をつけない。 ２．利息の支払場所 別記「（注）14　元利金の支払」記載のとおり。
償還期限	2029年12月７日
償還の方法	１．償還金額 各社債の金額100円につき金100円 ２．償還の方法及び期限 (1) 本社債の元金は、2029年12月７日にその総額を償還する。 (2) 償還期日が銀行休業日に当たるときは、その支払は前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 本社債の買入消却は、払込期日の翌日以降、別記「振替機関」欄に定める振替機関が規定する業務規程その他の規則に別途定める場合を除き、いつでもこれを行うことができる。 ３．償還元金の支払場所 別記「（注）14　元利金の支払」記載のとおり。
募集の方法	一般募集
申込証拠金（円）	各社債の金額100円につき金100円とし、払込期日に払込金に振替充当する。 申込証拠金には利息をつけない。
申込期間	2026年11月26日から2026年12月８日まで
申込取扱場所	別項引受金融商品取引業者の本店及び国内各支店
払込期日	2026年12月９日
振替機関	株式会社証券保管振替機構 東京都中央区日本橋兜町７番１号
担保	本社債には担保ならびに保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はない。
財務上の特約（担保提供制限）	１．当社は、本社債発行後、本社債の未償還残高が存する限り、当社が国内で既に発行した、または国内で今後発行する他の社債に担保提供する場合には、本社債のために担保付社債信託法に基づき同順位の担保権を設定する。本発行登録追補書類において担保提供とは、当社の資産に担保権を設定すること、当社の特定の資産につき担保権設定の予約をすること及び当社の特定の資産につき特定の債務以外の債務の担保に供しない旨を約することをいう。

	２．本欄第１項に基づき設定した担保権が本社債を担保するに十分でない場合、当社は本社債のために担保付社債信託法に基づき社債管理者が適当と認める担保権を設定する。 ３．当社が、合併または会社法第２条第29号に定める吸収分割により、担保権の設定されている吸収合併消滅会社または吸収分割会社が国内で発行した社債を承継する場合は、本欄第１項は適用されない。
財務上の特約（その他の条項）	担保付社債への切換 (1) 当社は、社債管理者と協議のうえ、いつでも本社債のために担保付社債信託法に基づき社債管理者が適当と認める担保権を設定することができる。 (2) 当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第１項、第２項または本欄第(1)号により本社債のために担保権を設定する場合は、当社は、直ちに登記その他必要な手続を完了し、かつ、その旨を担保付社債信託法第41条第４項の規定に準じて公告するものとする。 (3) 当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第１項、第２項または本欄第(1)号により本社債のために担保付社債信託法に基づき担保権を設定したときには、以後別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第１項、第２項及び別記（注）６(2)は適用しない。

（注）１　信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付

本社債について、当社は株式会社格付投資情報センター（以下Ｒ＆Ｉという。）からＡＡ（ダブルＡ）の信用格付を2026年11月25日付で取得している。

Ｒ＆Ｉの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定どおりに履行される確実性（信用力）に対するＲ＆Ｉの意見である。Ｒ＆Ｉは信用格付によって、個々の債務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何ら意見を表明するものではない。Ｒ＆Ｉの信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではない。また、Ｒ＆Ｉは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、またはその他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、いかなる保証もしていない。

Ｒ＆Ｉは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じているが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではない。Ｒ＆Ｉは、必要と判断した場合には、信用格付を変更することがある。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信用格付を取り下げることがある。

利息・配当の繰り延べ、元本の返済猶予、債務免除等の条項がある債務等の格付は、その蓋然性が高まったとＲ＆Ｉが判断した場合、発行体格付または保険金支払能力とのノッチ差を拡大することがある。

一般に投資に当たって信用格付に過度に依存することが金融システムの混乱を引き起こす要因となり得ることが知られている。

本社債の申込期間中に本社債に関してＲ＆Ｉが公表する情報へのリンク先は、Ｒ＆Ｉのホームページ（https://www.r-i.co.jp/rating/index.html）の「格付アクション・コメント」及び同コーナー右下の「一覧はこちら」をクリックして表示されるリポート検索画面に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。

Ｒ＆Ｉ：電話番号　03－6273－7471

２　社債、株式等の振替に関する法律の適用

本社債は、その全部について社債、株式等の振替に関する法律（平成13年法律第75号、以下社債等振替法という。）第66条第２号の規定に基づき、社債等振替法の適用を受けることとする旨を定めた社債であり、社債等振替法第67条第２項に定める場合を除き、社債券を発行することができない。

３　社債管理者

株式会社三菱ＵＦＪ銀行

４　期限の利益喪失に関する特約

当社は、次の各場合には本社債について直ちに期限の利益を喪失し、本（注）10に定めるところにより、その旨を公告するものとする。但し、当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第１項、第２項または別記「財務上の特約（その他の条項）」欄第(1)号により本社債のために担保付社債信託法に基づき社債管理者が適当と認める担保権を設定したときには、本（注）４(3)に該当しても期限の利益を喪失しない。

(1) 当社が別記「償還の方法」欄第２項の規定に違背したとき。
(2) 当社が別記「利息支払の方法」欄第１項の規定に違背し、７日を経過してもその履行をしないとき。
(3) 当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第１項または第２項の規定に違背したとき。
(4) 当社が別記「財務上の特約（その他の条項）」欄第(2)号、本（注）５、本（注）６、本（注）７または本（注）10の規定に違背し、社債管理者の指定する期間内にその履行または補正をしないとき。
(5) 当社が本社債以外の社債について期限の利益を喪失し、または期限が到来してもその弁済をすることが

できないとき。

(6) 当社が社債を除く借入金債務について期限の利益を喪失したとき、もしくは当社以外の社債またはその他の借入金債務に対して当社が行った保証債務について履行義務が発生したにもかかわらず、その履行をすることができないとき。但し、当該債務の合計額（邦貨換算後）が10億円を超えない場合は、この限りではない。

(7) 当社が破産手続開始、民事再生手続開始もしくは会社更生手続開始の申立てをし、または解散（合併の場合を除く。）の決議を行ったとき。

(8) 当社が破産手続開始、民事再生手続開始もしくは会社更生手続開始の決定、または特別清算開始の命令を受けたとき。

(9) 当社の事業経営に不可欠な財産に対し強制執行、仮差押えもしくは仮処分の執行もしくは競売の申立てがあったとき、もしくは滞納処分としての差押えがあったとき、またはその他の事由により当社の信用を著しく害する事実が生じ、かつ、社債管理者が本社債の社債権者（以下本社債権者という。）の権利保全上、本社債の存続を不適当であると認めたとき。

5　社債管理者に対する定期報告

(1) 当社は、随時社債管理者にその事業の概況を報告し、毎事業年度の決算及び剰余金の処分（会社法第454条第５項に定める中間配当を含む。）については、社債管理者にこれを通知するものとする。当社が、会社法第441条第１項に定められた一定の日において臨時決算を行った場合もまた同様とする。

(2) 当社は、金融商品取引法に基づき作成する有価証券報告書、半期報告書、確認書、内部統制報告書、臨時報告書ならびにそれら添付書類及び訂正報告書について、金融商品取引法第27条の30の３に基づき電子開示手続の方法により提出を行った場合には、社債管理者に遅滞なく通知する。但し、社債管理者がそれらの写の提出を要求した場合には、当社は社債管理者にそれらの写を提出する。なお本社債発行後に金融商品取引法（関連法令を含む。）の改正が行われた場合、改正後の金融商品取引法に従って開示手続を行い、社債管理者に遅滞なく通知するものとする。

6　社債管理者に対する通知

(1) 本社債発行後、社債原簿に記載すべき事由が生じたとき及び変更が生じたときは、当社は遅滞なく社債原簿にその旨を記載し、書面をもって社債管理者に通知する。

(2) 当社は、本社債発行後、当社が国内で既に発行した、または国内で今後発行する他の社債のために担保提供しようとする場合は、あらかじめ書面によりその旨ならびにその事由、債務の内容及び担保物その他必要な事項を社債管理者に通知する。

(3) 当社は、次の各場合にはあらかじめ書面により社債管理者に通知する。

① 当社の事業経営に不可欠な財産を譲渡し、または貸与しようとするとき。

② 事業の全部または重要な部分を変更し、休止もしくは廃止しようとするとき。

③ 資本金または準備金の額を減少しようとするとき。

④ 組織変更、合併、会社分割、株式交換または株式移転をしようとするとき。

7　社債管理者の調査権限

(1) 社債管理者は、本社債に係る管理委託契約の定めるところに従い、その権限を行使し、または義務を履行するために必要であると認めたときは、当社ならびに当社の連結子会社及び持分法適用会社の事業、経理、帳簿書類等に関する報告書の提出を請求し、または自らこれらにつき調査することができる。

(2) 本（注）７(1)の場合で、社債管理者が当社ならびに当社の連結子会社及び持分法適用会社の調査を行うときは、当社は、これに協力するものとする。

8　債権者の異議手続における社債管理者の権限

社債管理者は、会社法第740条第２項本文の規定にかかわらず、同条第１項に定める異議の申立てに関し、社債権者集会の決議によらずに本社債権者のために異議を述べることは行わない。

9　社債管理者の辞任

社債管理者は、本社債権者と社債管理者との間で利益が相反する場合（利益が相反するおそれがある場合を含む。）、その他正当な事由があるときは、社債管理者の事務を承継する者を定めて辞任することができる。但し、社債管理者は、社債管理者の事務を承継する者を定めるに当たってはあらかじめ当社と協議するものとする。

10　社債権者に通知する場合の公告

本社債に関して本社債権者に対し通知する場合の公告は、法令に別段の定めがあるものを除き、当社の定款所定の電子公告の方法によりこれを行うものとする。但し、社債管理者が本社債権者のために必要と認める場合及び事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、定款所定の新聞紙ならびに東京都及び大阪市において発行する各１種以上の新聞紙（但し、重複するものがあるときはこれを省略することができる。）にこれを掲載する。また、社債管理者が公告を行う場合は、法令所定の方法によるほ

か、社債管理者が本社債権者のために必要と認める場合には、東京都及び大阪市で発行される各１種以上の新聞紙にもこれを掲載する。

11　社債要項及び管理委託契約証書の公示

当社及び社債管理者は、それぞれの本店に本社債の社債要項及び本社債に係る管理委託契約証書の謄本を備え置き、その営業時間中、一般の閲覧に供するものとする。

12　社債権者集会の招集

(1) 本社債及び本社債と同一の種類（会社法第681条第１号に定める種類をいう。）の社債（以下本種類の社債と総称する。）の社債権者集会は当社または社債管理者がこれを招集するものとし、社債権者集会の日の３週間前までに本種類の社債の社債権者集会を招集する旨及び会社法第719条各号所定の事項を本（注）10に定める方法により公告する。

(2) 本種類の社債の社債権者集会は、東京都においてこれを行う。

(3) 本種類の社債の総額（償還済みの額を除く。また、当社が有する本種類の社債の金額の合計額は算入しない。）の10分の１以上に当たる本種類の社債を有する社債権者は、本種類の社債に関する社債等振替法第86条第３項に定める書面を社債管理者に提示したうえ、本種類の社債の社債権者集会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を当社または社債管理者に提出して、当社または社債管理者に対し、本種類の社債の社債権者集会の招集を請求することができる。

13　発行代理人及び支払代理人

別記「振替機関」欄に定める振替機関が規定する業務規程に基づく本社債の発行代理人業務及び支払代理人業務は、株式会社三菱ＵＦＪ銀行がこれを取り扱う。

14　元利金の支払

本社債に係る元利金は、社債等振替法及び別記「振替機関」欄に定める振替機関が規定する業務規程その他の規則に従って支払われる。

２【社債の引受け及び社債管理の委託】

（１）【社債の引受け】

引受人の氏名又は名称	住所	引受金額（百万円）	引受けの条件
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋１丁目13番１号	31,000	１．引受人は本社債の全額につき連帯して買取引受を行う。 ２．本社債の引受手数料は総額３億円とする。
ＳＭＢＣ日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内３丁目３番１号	25,000	
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内１丁目９番１号	15,000	
三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区大手町１丁目９番２号	15,000	
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町１丁目５番１号	9,000	
株式会社ＳＢＩ証券	東京都港区六本木１丁目６番１号	5,000	
計	－	100,000	－

（２）【社債管理の委託】

社債管理者の名称	住所	委託の条件
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	東京都千代田区丸の内１丁目４番５号	１．社債管理者は、本社債の管理を受託する。 ２．本社債の管理手数料については、社債管理者に、期中において年間各社債の金額100円につき金１銭を支払うこととしている。

３【新規発行による手取金の使途】

（１）【新規発行による手取金の額】

払込金額の総額（百万円）	発行諸費用の概算額（百万円）	差引手取概算額（百万円）
100,000	323	99,677

（２）【手取金の使途】

上記差引手取概算額99,677百万円については、全額を2026年12月末までに返済期日が到来する短期借入金の返済資金の一部に充当する予定であります。

第２【売出要項】

該当事項はありません。

第３【第三者割当の場合の特記事項】

該当事項はありません。

第二部【公開買付け又は株式交付に関する情報】

該当事項はありません。

第三部【参照情報】

第１【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第５条第１項第２号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

１【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度　第42期（自　2025年４月１日　至　2026年３月31日）　2026年６月25日関東財務局長に提出

２【半期報告書】

事業年度　第43期中（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）　2026年11月10日関東財務局長に提出

３【臨時報告書】

１の有価証券報告書提出後、本発行登録追補書類提出日（2026年11月25日）までに、金融商品取引法第24条の５第４項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第２項第２号の２の規定に基づく臨時報告書を2026年８月７日に関東財務局長に提出

第２【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書及び半期報告書（以下有価証券報告書等という。）に記載された「事業等のリスク」について、当該有価証券報告書等の提出日以後、本発行登録追補書類提出日（2026年11月25日）までの間において生じた変更その他の事由はありません。以下の内容は、当該有価証券報告書等に記載された「事業等のリスク」を一括して記載したものであります。

また、当該有価証券報告書等には将来に関する事項が記載されておりますが、当該事項は本発行登録追補書類提出日現在においてもその判断に変更はなく、新たに記載する将来に関する事項もありません。なお、当該将来に関する事項については、その達成を保証するものではありません。

［事業等のリスク］

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」）の状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

また、現時点では必ずしもリスクとして認識されない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から開示しております。

当社は、リスクマネジメント活動を一元的に推進する体制を整えています。また、グループ全体の持続的な成長を実現するため、当社のみならず子会社などを含むグループ全体でのリスクマネジメントの推進に取り組んでいます。当社は、会社の危機を未然に防ぐためには、その予兆を把握し、事態が悪化する前に対策を講じることが重要という認識のもと、リスクマネジメント活動のPDCAサイクルを構築しています。また、リスクの発見時には迅速かつ適切な対応がとれる危機管理体制を整備しています。当社は、これらのリスクによる問題発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の適時適切な対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は本発行登録追補書類提出日（2026年11月25日）現在において判断したものであり、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意ください。

(1) 他の事業者や他の技術との競争、市場や事業環境の急激な変化

現代社会において、通信はあらゆるものに溶け込んでおり、通信の社会的役割がより一層重要になる中、AI技術の進化により、生活や産業など社会全般において、新たな価値創造の時代が到来しつつあります。また、日本国内では、生産性向上や脱炭素化など、サステナブルな社会の実現に向け、産業構造の変革が期待されています。

他の事業者や他の技術との競争、市場や事業環境の急激な変化により、主に以下の事項に不確実性が存在し、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

・当社グループの期待通りの需要が存在するかどうか
・当社グループの期待通りに契約数を維持拡大できるかどうか
・人口減少、高齢化に伴い期待通りの収入をあげられるかどうか
・新規事業への参入等により期待通りの収入をあげられるかどうか
・競争激化に伴う料金値下げによる通信料収入の低下、販売コミッションやお客さま維持コストの増大
・契約者のサービス利用頻度が下がることによる通信料収入の低下
・不測の事態が発生した場合であってもネットワーク及びコンテンツの品質等がお客さまの満足度を維持できるかどうか
・他の事業者と比較して、常により魅力のある端末やコンテンツ等の商品、サービスを提供できるかどうか
・物販事業拡大に伴う商品不具合への対応
・端末の高機能化等に伴う端末価格の上昇による販売コミッションの増加
・迷惑メール、主にスマートフォンのセキュリティ脆弱性がもたらす脅威によるお客さま満足度の低下や防止対応コストの増加
・新周波数対応による基地局建設やデータトラフィック急増に伴うネットワークコストの増加
・当社の必要に応じた周波数を獲得できるかどうか
・新たな高速データ無線技術による競争激化
・通信方式、端末、ネットワーク、ソフトウェア等における特定技術への依存による影響
・無料通話アプリ等の拡大に伴う音声通話料収入の縮小
・他の電気通信事業者との接続料金値上げの可能性
・異業種との提携、通信と電力等のその他商品とのセット販売、MNO、MVNO事業者の新規参入、他事業者の事業領域の拡大等の事業環境の変化に伴う競争の激化
・金融事業における競争において期待通りの収入を上げられるかどうか
・金融事業の市況変動及び債務者の信用状況の悪化により、不良債権の増加や担保不動産価値の減少が生じるこ

とによる貸倒引当金の追加計上
・燃料高騰等による通信設備コストの増加及びエネルギー事業における電力調達コストの増加
・日本国内における人件費や建設費、物価の高騰に伴う仕入コスト等の増加
・米国による関税率の引き上げに伴う端末価格等の高騰

(2) 通信の秘密及び顧客情報の不適切な取り扱いや流出、及び、当社の提供する製品・サービスの不適切な利用等

近年、サイバー攻撃の手法は一層高度化・巧妙化しており、ランサムウェア攻撃やAIを用いた攻撃などの増加により、企業活動に重大な影響を及ぼすリスクが高まっています。例えば、地政学的な背景を有する高度な攻撃によるサービス停止や機密情報の漏えいは、企業にとって深刻な脅威であるのみならず、我が国の安全保障にも影響を及ぼす可能性があります。また、フィッシング詐欺をはじめとする不正行為も増加しており、お客さまが利用するサービスの不正利用による被害につながっています。

こうしたリスクに対応するため、当社グループでは、「KDDIセキュリティポリシー」「データ利用における基本指針」「KDDIプライバシーポリシー」および「KDDIグループAI開発・利活用原則」を策定し、KDDIグループ全体の情報セキュリティガバナンスの強化に継続的に取り組んでいます。また、当社は、情報資産の保護・管理を適切に行うため、代表取締役社長を委員長とするリスクマネジメント委員会の配下に、経営層および事業・技術・コーポレート各部門の統括責任者で構成される情報セキュリティ部会を設置しています。同部会において、内部からの情報漏えい防止や外部ネットワークからの不正侵入対策など、全社的な情報セキュリティ施策を策定・推進します。

このような体制のもと、当社はリスクへの対応を継続的に実施しています。想定されるリスクの一つとして、悪意を持った第三者によるサイバー攻撃などにより、サービス停止やサービスの品質低下といった事業影響が生じる可能性があります。これらのリスクの回避および低減に向け、事業を担うシステムが守るべきセキュリティ対策の基準を規程として定めています。システム化検討段階におけるチェックに加え、開発段階では、脆弱性への対応として、ネットワークやWebサービスに問題がないかの点検を実施しています。さらに、リリース後も、定期的な監査、点検および脆弱性診断を継続することで、セキュリティレベルの維持・強化に取り組んでいます。

また、システムへの不正侵入により通信の秘密および顧客情報が漏えいする可能性があります。当社では、こうした脅威に迅速に対応できる環境を整備するとともに、情報漏えいの防止に向け、全社的な対応策の策定およびGDPRをはじめとするグローバルな法制度に対応しています。セキュリティ監視においては、不正アクセスや改ざん、標的型攻撃などの脅威に対し、24時間365日の体制で監視しています。監視機器から出力されるログをベースに監視・分析・検知を行うとともに、社内の関係部門と連携し、万が一の有事においても監視が継続できるよう、事業継続計画に基づき体制や手順の整備を行っています。これに加え、お客さまのデータおよび提供サービスを守るため、当社社員に対し、通信の秘密および顧客情報保護に関する教育を継続的に実施しています。業務委託先に対しても、情報漏えいのリスクを踏まえた定期的な監査や教育、セキュリティポリシーの遵守徹底など、情報取扱いの強化を図っています。リスクの高い顧客情報取扱業務に対しては、監査を強化しています。また、適正な顧客情報の取扱いを確保するため、社内組織の整備、第三者による評価の実施、サービス導入前のプライバシー影響評価（PIA）の導入などに取り組んでいます。

当社の提供する製品・サービスが不適切に利用された場合には、当社グループのブランドイメージや信頼性が損なわれる可能性があります。このため、当社では、「サービス仕様の監査」「監視」「啓発」の三つの施策を軸に対策に取り組んでいます。サービス仕様については監査を実施し、不備や悪用の可能性を特定しています。サービスの不正利用やフィッシングサイトの発生を監視・検知し、発生時には関係機関と連携のうえ、フィッシングサイトの閉鎖や不正を検知したアカウントの利用制限などにより被害の抑止を図っています。また、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備などに関する法律」に基づき、未成年のご契約時は原則としてフィルタリングサービスを設定するとともに、その利便性や認知度向上にも取り組んでいます。

これらの取り組みにより、お客さまに安心して通信サービスをご利用いただけるよう努めています。

(3) 通信障害・自然災害・事故等

当社グループは音声通信、データ通信等のサービスを提供するために、国内外の通信ネットワークシステム及び通信機器等に依存しております。ネットワークシステムや通信機器の障害などによるサービスの停止が発生した場合、当社グループのブランドイメージや信頼性の失墜、顧客満足度の低下により経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、大規模な誤請求・誤課金、販売代理店の閉鎖や物流の停止に伴う商品・サービスの提供機会損失、SNSなどの媒体を通じた風評被害等が発生した場合も同様の影響が生じる可能性があります。

当社グループは通信障害・自然災害・事故等によるサービスの停止、中断等のリスクを可能な限り低減するため、ネットワークの信頼性向上とサービス停止の防止対策に取り組んでおります。具体的には災害時においても通信サービスを確保できるよう、防災業務実施の方針を定め、災害に備えた対策を図り、国内外の関係機関と密接な連絡調整を行っています。災害が発生した場合には、各社組織の各機能を最大限に発揮して24時間365日、通信の

疎通確保と施設の早期復旧に努めております。

当社連結子会社であるKDDI Summit Global Myanmar Co., Ltd.（以下「KSGM」）は、ミャンマー運輸通信省傘下組織であるミャンマー国営郵便・電気通信事業体（MPT）の通信事業運営のサポートを行っておりますが、2021年２月に発生した政変によって事業活動が制限されるなどした場合、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、KSGMは本事業活動におけるリース債権を保有しており、2022年４月以降開始されたミャンマー中央銀行及び外国為替監督委員会による外国為替管理の規制により、USドル建てのリース債権の回収に制限を受けております。購入又は組成した信用減損金融資産27,049百万円を認識しておりますが、当該金融資産の測定にあたり用いた仮定は、前提とした状況が変化すれば、当該金融資産の償却原価の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。なお、ミャンマー通信事業に係るリース債権の詳細は、第42期有価証券報告書の「第５　経理の状況　１．連結財務諸表等　連結財務諸表注記　31．金融商品」に記載しています。

当社グループのサービスの提供が停止する主な事由として以下のものが考えられます。

・地震及び津波、台風、洪水等の自然災害やそれに伴う有害物質の飛散等の２次災害
・感染症の世界的流行（パンデミック）
・戦争、テロ、事故その他不測の事態
・電力不足、停電
・コンピューターウィルス、サイバー攻撃、ハッキング
・オペレーションシステムのハード、ソフトの不具合
・通信機器等の製品やサービスに係る欠陥

(4) 電気通信事業等に関する法規制、政策決定等

電気通信事業をはじめ、電気事業や金融事業等に関する法律、規制の改廃または政策決定等が、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループのブランドイメージや信頼性に影響を与える社会的問題を含め、こうした法規制や政策決定等に対して当社グループは適切に対応していると考えておりますが、将来において適切な対応ができなかった場合には、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、今後の競争政策の在り方について、総務省等における様々な審議会や研究会、意見募集等を通じて、他の電気通信事業者等との公正競争を有効に機能させるための措置の必要性を訴えておりますが、この取り組みに関わらず結果として当社の競争優位性が相対的に損なわれた場合にも、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

2025年５月21日に「電気通信事業法及び日本電信電話株式会社等に関する法律の一部を改正する法律」が成立しましたが、日本の電気通信事業の公平な競争環境の確保は、公正競争ルールを規定した電気通信事業法と、日本電信電話公社から資産や設備（以下、特別な資産）を継承した日本電信電話株式会社（現NTT株式会社）と東日本電信電話株式会社（現NTT東日本株式会社）および西日本電信電話株式会社（現NTT西日本株式会社）に対して公益的な責務などを課す「日本電信電話株式会社等に関する法律（以下NTT法）」を組み合わせて実現されています。

NTTの特別な資産の維持・保護、国民生活や地域を守るユニバーサルサービスの確保、利用者利便を高める公正な競争の促進及び安全保障などの確保に向けて、今後も時代に即したNTT法の必要な見直しや強化などを適切に行いながら、NTT法を維持することが必要不可欠です。

これまでのNTTによる株式会社NTTドコモの完全子会社化や今般の株式会社NTTデータグループの完全子会社化、さらに今後も組織または事業の統合・譲渡などのNTTグループ一体化が進むと、その事業運営によって公正な競争が阻害され、効率性とグループ利益を優先する結果、国民生活や地域を守る全国のユニバーサルサービスを含めた我が国の電気通信の健全な発達および国民の利便の確保が損なわれるおそれがあるため、NTTのあり方については適時適切に検証を行い、必要な措置を講じるなど、慎重な政策議論が必要と考えております。

さらに、近年、経済安全保障の重要性が高まる中、「経済施策を一体的に講ずることによる安全保障の確保の推進に関する法律（経済安全保障推進法）」に基づき、当社は特定社会基盤事業者に指定されております。同法に基づく特定重要設備の導入等に関する国の審査や各種規制、ならびにサプライチェーン・リスク管理等に対して適切に対応しておりますが、将来においてこれらの規制の見直しや追加等が行われた場合には、追加の対策やコストの発生等、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

その他、電気通信事業等に関する法律、規制の改廃または政策決定や当社グループの競争優位性等の観点で、電気通信事業、電気事業や金融事業等の政策決定等に限らず、不確実性が存在しています。

(5) 公的規制

当社グループは、事業展開する各国において、事業・投資の許可、国家安全保障、さまざまな政府規制の適用を受けております。また、通商、独占禁止法、特許、消費者、租税、為替、環境、労働、金融（自己資本比率規制等）、電力等の法規制の適用を受けております。当社グループはこれらの法規制に係る情報を早期に収集し、必要な手続・対応を行っております。なお、これらの規制が強化された場合や当社グループ及び業務委託先等において規制を遵守できなかった場合、当社グループの活動が制限され、コストの増加につながる可能性があります。

(6) 訴訟・特許

当社グループは、国内外で事業活動を行っており、その遂行に当たっては、各国の法令その他社会規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行っております。また、保有する商品、技術またはサービスに係る知的財産権を保護するとともに、第三者の知的財産権を侵害しないよう努めています。なお、予期せぬ知的財産権を含む各種権利等の侵害を理由とする訴訟が提訴され、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 人材の確保・育成・労務管理

当社グループは、技術革新に即応すべく全社をあげて人材育成、キャリア形成の支援に注力しておりますが、期待通りの効果が出るまで一定の期間を要することがあり、将来的に人材投資コストが増加する可能性があります。また、当社グループは法令に基づき適正な労務管理、働き方改革の推進に努めております。なお、将来において適切な対応ができなかった場合には、当社グループのブランドイメージや信頼性の失墜により、経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 減損会計

当社グループは、IFRSに準拠して資産の減損の兆候の判定や減損テスト等を行い適切な処理を行っております。将来において事業状況が悪化した場合、回収可能価額の低下により、保有するのれんを含む資産の減損損失が発生する可能性があります。

(9) 電気通信業界の再編及び当社グループの事業再編

当社グループは、市場環境の変化に対して、事業戦略の着実な推進や必要に応じて事業再編を行っておりますが、国内外の電気通信業界の再編が、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 内部統制に関するリスク

当社の連結子会社であるビッグローブ株式会社及び同社の子会社であるジー・プラン株式会社（以下、併せて「本件子会社」といいます。）の広告代理事業に関し、本件子会社の社員により不適切な取引が行われていた疑いが確認されたことに伴い、外部の弁護士・公認会計士で構成される特別調査委員会による調査を実施した結果、実体が存在しない架空循環取引が行われていたことが認められました。当該調査結果を受け、過年度の有価証券報告書等の訂正を行うとともに、2026年６月２日に東京証券取引所へ改善報告書を提出いたしました。

当社グループは、グループガバナンスの更なる強化に取り組んでおりますが、改善措置の一部又は全部が適切に整備・運用されず、不適切な取引や会計処理等が発生した場合、当社グループの経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

第３【参照書類を縦覧に供している場所】

ＫＤＤＩ株式会社　本店
（東京都新宿区西新宿２丁目３番２号）
株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第四部【保証会社等の情報】

該当事項はありません。

「参照方式」の利用適格要件を満たしていることを示す書面

会社名	ＫＤＤＩ株式会社
代表者の役職氏名	代表取締役社長　CEO　　松田　浩路

1　当社は１年間継続して有価証券報告書を提出しております。

2　当社の発行する株券は、東京証券取引所に上場されております。

3　当社の発行済株券は、３年平均上場時価総額が250億円以上であります。

9,985,832百万円

（参考）

（2023年７月31日の上場時価総額）

東京証券取引所における最終価格		発行済株式総数		
4,187円	×	2,302,712,308株	＝	9,641,456百万円

（2024年７月31日の上場時価総額）

東京証券取引所における最終価格		発行済株式総数		
4,520円	×	2,191,846,416株	＝	9,907,145百万円

（2025年７月31日の上場時価総額）

東京証券取引所における最終価格		発行済株式総数		
2,485.5円	×	4,187,847,474株	＝	10,408,894百万円

（注）　2025年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。

事業内容の概要及び主要な経営指標等の推移

１．事業内容の概要

当社の企業集団は、当社、連結子会社180社（国内120社、海外60社）、持分法適用関連会社及び共同支配企業41社（国内31社、海外10社）（2026年９月30日現在）により構成されており、「テレコムコア事業」、「パーソナルグロース事業」、「ビジネスグロース事業」を主な事業としております。

当社グループの事業における当社、連結子会社、持分法適用関連会社及び共同支配企業の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

テレコムコア事業

主要なサービス	個人のお客さま及び法人のお客さま向けに通信及びその周辺サービス（au・UQ・povoのマルチブランドによる通信サービス、スマートフォン・携帯電話販売、FTTH／CATVサービスなど）を提供しております。 LTV（ライフタイムバリュー）を重視した構造改革を推進し、モバイル収入と営業利益の安定成長を追求します。さらに、AIの活用により通信品質の更なる高度化と運用の効率化を推進し、筋肉質な利益構造へと変革することで、グループ成長のための投資原資を創出します。	
主要な関係会社	〔親会社〕	KDDI(株)
	〔連結子会社〕	沖縄セルラー電話(株)、JCOM(株)、UQコミュニケーションズ(株)、 ビッグローブ(株)、中部テレコミュニケーション(株)、 ジュピターショップチャンネル(株)、 auエネルギーホールディングス(株)、KDDI Sonic-Falcon(株)、 KDDI エンジニアリング(株)、KDDI Biz Edge(株)、 KDDI America, Inc.、KDDI Europe Limited、 北京凱迪迪愛通信技術有限公司、KDDI Asia Pacific Pte Ltd

パーソナルグロース事業

主要なサービス	個人のお客さま向けに非通信サービス（金融、エネルギー、端末修理などのデバイス関連サービス、Pontaパス／ローソンなど）を提供しております。 AIを活用しお客さまの生活に寄り添う「AI 生活力」を提供するために、通信を核とした多様なサービスを融合させ、新たな体験価値を創出します。金融、エネルギーに加え、デバイス、Pontaパス／ローソンの領域で、新たなビジネスモデルの創出に向けた取組を加速させるとともに、日本国内で得た知見や成功モデルの海外展開を図り、さらなる成長を目指します。	
主要な関係会社	〔親会社〕	KDDI(株)
	〔連結子会社〕	au フィナンシャルホールディングス(株)、 au エネルギーホールディングス(株)、エナリス(株)、 MobiCom Corporation LLC
	〔持分法適用共同支配企業〕	(株)ローソン

ビジネスグロース事業

主要なサービス	法人のお客さま向けにAI前提社会を支える５つの事業領域（AI インテグレーション、サイバーセキュリティ、コネクティッド、データセンター、AI-BPO）を提供しております。 AI インテグレーション、サイバーセキュリティの領域で、AI活用ニーズや制度変更機会などを捉え、成長を加速します。また、コネクティッド、データセンターの領域では、次なるデジタルインフラとして高付加価値化と安定成長の両立を目指し、AI-BPOではAIを駆使しお客さま体験価値向上と企業業務の変革を推進していきます。	
主要な関係会社	〔親会社〕	KDDI(株)
	〔連結子会社〕	アルティウスリンク(株)、KDDI アイレット(株)、(株)ラック、 KDDI America, Inc.、Telehouse Canada Inc.、 KDDI Europe Limited、北京凱迪迪愛通信技術有限公司、 KDDI Asia Pacific Pte Ltd、 TELEHOUSE International Corporation of America、 TELEHOUSE Holdings Limited、 TELEHOUSE International Corporation of Europe Ltd.

その他

主要なサービス	通信設備建設及び保守等を提供しています。	
主要な関係会社	〔親会社〕	KDDI(株)
	〔連結子会社〕	(株)イーオンホールディングス、KDDI エンジニアリング(株)、 KDDI SUMMIT GLOBAL SINGAPORE PTE. LTD.、 KDDI Summit Global Myanmar Co., Ltd.
	〔持分法適用関連会社〕	京セラコミュニケーションシステム(株)、 KKCompany Technologies Inc.

２．主要な経営指標等の推移

(1) 連結経営指標等

回次		第38期	第39期	第40期	第41期	第42期
決算年月		2022年３月	2023年３月	2024年３月	2025年３月	2026年３月
売上高	（百万円）	5,446,708	5,630,024	5,699,724	5,835,525	6,071,915
税引前当期利益	（百万円）	1,064,497	1,049,120	943,172	1,073,418	1,117,904
親会社の所有者に帰属する当期利益	（百万円）	672,486	651,391	600,281	655,416	707,112
親会社の所有者に帰属する当期包括利益	（百万円）	706,668	615,662	689,833	582,316	748,800
親会社の所有者に帰属する持分	（百万円）	4,982,586	5,063,867	5,188,048	5,032,495	5,076,738
総資産額	（百万円）	11,084,379	11,855,594	14,054,762	16,714,708	19,063,364
１株当たり親会社所有者帰属持分	（円）	1,124.64	1,173.76	1,245.78	1,264.94	1,333.50
基本的１株当たり当期利益	（円）	150.01	149.15	141.75	161.86	183.59
希薄化後１株当たり当期利益	（円）	149.86	149.09	141.72	161.81	183.55
親会社所有者帰属持分比率	（%）	45.0	42.7	36.9	30.1	26.6
親会社所有者帰属持分当期利益率	（%）	13.8	13.0	11.7	12.8	14.0
株価収益率	（倍）	13.35	13.72	15.81	14.58	14.83
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	1,468,648	1,078,869	1,706,498	1,249,042	1,788,853
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△761,593	△732,480	△832,433	△1,180,103	△1,080,455
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△727,257	△669,837	△476,477	△33,555	△553,130
現金及び現金同等物の期末残高	（百万円）	796,613	480,252	887,207	921,175	1,078,807
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	（名）	48,829 (37,180)	49,659 (36,672)	61,288 (47,425)	64,636 (52,750)	73,198 (44,964)

（注）１．第32期より国際財務報告基準（IFRS）に基づいて連結財務諸表を作成しております。

２．IFRS第17号「保険契約」を第40期の期首から適用し、基準移行日である2022年４月１日時点に基準変更による累積的影響額を反映しております。これに伴い、第39期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっております。

３．当社は、2025年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。第38期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、１株当たり親会社所有者帰属持分、基本的１株当たり当期利益及び希薄化後１株当たり当期利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第38期	第39期	第40期	第41期	第42期
決算年月		2022年３月	2023年３月	2024年３月	2025年３月	2026年３月
営業収益	（百万円）	4,037,023	3,780,778	3,683,130	3,797,652	3,908,479
経常利益	（百万円）	790,544	756,946	781,171	722,917	821,707
当期純利益	（百万円）	561,015	544,628	531,481	508,455	591,019
資本金	（百万円）	141,852	141,852	141,852	141,852	141,852
発行済株式総数	（株）	2,304,179,550	2,302,712,308	2,302,712,308	2,191,846,416	4,187,847,474
純資産額	（百万円）	4,113,639	4,034,858	4,027,683	3,804,825	3,709,618
総資産額	（百万円）	5,966,580	5,998,093	6,430,897	7,250,062	7,543,011
１株当たり純資産額	（円）	928.50	935.24	967.14	956.36	974.40
１株当たり配当額 （内１株当たり中間配当額）	（円）	125.00 (60.00)	135.00 (65.00)	140.00 (70.00)	145.00 (70.00)	80.00 (40.00)
１株当たり当期純利益	（円）	125.15	124.71	125.51	125.56	153.45
潜在株式調整後１株当たり当期純利益	（円）	―	―	―	―	―
自己資本比率	（%）	68.9	67.3	62.6	52.5	49.2
自己資本利益率	（%）	13.7	13.4	13.2	13.0	15.7
株価収益率	（倍）	16.00	16.41	17.86	18.79	17.75
配当性向	（%）	49.9	54.1	55.8	57.7	52.1
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	（名）	10,455 (6,418)	9,377 (4,652)	9,409 (4,187)	9,483 (4,163)	9,891 (4,169)
株主総利回り （比較指標：TOPIX（配当込み））	（%） （%）	121.6 (102.0)	128.2 (107.9)	143.8 (152.5)	155.1 (150.2)	181.2 (202.2)
最高株価	（円）	4,164.0	4,636.0	5,080.0	2,442.5 (5,311.0)	2,827.0
最低株価	（円）	3,237.0	3,825.0	4,008.0	2,334.0 (4,120.0)	2,227.0

（注）１．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２．最高株価及び最低株価は、2022年４月４日より東京証券取引所（プライム市場）におけるものであり、それ以前については東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

３．当社は、2025年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。第38期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、１株当たり純資産額及び１株当たり当期純利益を算定しております。

４．当社は、2025年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。第38期～第41期の１株当たり配当額については当該株式分割前の数値を、第42期の１株当たり配当額については株式分割後の数値を記載しております。

５．当社は、2025年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。第41期の株価については当該株式分割後の最高株価及び最低株価を記載しており、（ ）内に株式分割前の最高株価及び最低株価を記載しております。

６．百万円未満を四捨五入して記載しております。

株式会社プロネクサス　印刷